

麻生区役所太陽光発電所から自然エネルギーを普及させるために

# おひさまだより

発行 麻生区クールアース推進委員会 2024年3月  
麻生区地域課題対応事業

49  
Vol.1



## Contents

- ・『気候変動と日本』映画を見て、温暖化対策に一步踏み出そう ①②
- ・コラム 2023年麻生区男女共に平均寿命が日本一に！！ ②
- ・あさお自然エネルギー学校/麻生区100人カイギに登壇/  
あさお区民まつり“おひさまと遊ぼう” ③
- ・寺子屋あさおで出前講座/2023年度の活動/編集後記 ④

## 麻生区役所太陽光発電設備設置 21周年記念イベント

### 『気候変動と日本』

映画を見て、  
温暖化対策に  
一步踏み出そう



2月中旬だというのに春のような暖かさなのを歓迎してよいのかと複雑な気持ちになる2月18日、映画上映とトークを組み合わせたイベントを麻生区役所で開催した。参加者は59名、委員11名、区役所4名に講演者と聴覚サポート2名を加え総勢77名だった。主催団体を代表して児嶋委員長、また区役所を代表して地域振興課課長の挨拶によって開会し、映画の上映にはいった。

### ■映画上映

今回上映した映画は350.org Japan提供の短編2本であった。

1本目の『Signs from Nature ~気候変動と日本~』は、気候変動の状況を広く知ってもらうために2019年に制作されたものである。北海道で天然の昆布が激減し、獲れる魚の種類も変化している。長野で気温の上昇によって湖に氷が張らなくなったり雪質が変化している。岡山で2018年7月の西日本豪雨で甚大な浸水被害を受けた農業や建物の悲惨な状況。沖縄で台風のでき方が変わっていたり海水温の上昇によりサンゴの白化や魚の減少が起きている。日本のあちこちで起きている気候変動の影響を、映像と出演者のコメントで綴られていくのを見て、参加者は体感し始めている「危機」を改めて再確認したようだった。

続く2本目の『People Power~気候変動と日本II~』は、知る段階から行動する段階に進めていくことを促す目的で、2021年に制作されたものである。科学者やコンサルタントなどのコメントを参照しながら、その「危機」に対してアクションに取り掛かっている人たちの姿を追っている。学生たちが路上で気候マーチをする。育児中の母親が350の取り組みに賛同して銀行へのお金の預け方を変える。食と音楽から気張らずに取り組む。発電機を作る活動をする。関わり方は人それぞれではあるが、危機感を持って何か行動したいと思っている人たちには参考になっただろう。



### ■トークタイム (ゲストトーク~参加者意見交換)

国際環境 NGO 350.org Japan のリーダーで『People Power』の出演者でもある荒尾日南子さんが登壇した。とてもフレンドリーな雰囲気、参加者が大きな拍手をもって迎えた。最初に、上映された2本の映画の内容も巧みに関連づけながら自己紹介をした。350の組織や活動を話したのち、昨年2023年に世界各地で起こっていた異常現象を具体的に挙げて、映画制作後に更に加速する気候変動への危機感をわかりやすく説明した。また、産業革命前に対して+1.5°Cか+2.0°Cかでどんなに影響が違ってくるかを具体例で示し、+1.5°Cという目標の大事さを伝えた。そして、取り戻せない気候崩壊へのスイッチを押さないために、大きくかつスピーディーな変化が必要であり、みんなが体感して何とかしなければと言い出してからは地球規模の活動としては遅く、一人一人がエコな生活をするだけでは解決できず、社会全体としてシステムチェンジをするような変化が必要とされることを説明した。これに対して、人口の中の3.5%が非暴力的な活動に関与した場合に、活動の目標とすることが達成される、という米ハーバード大学の研究を引用しながら、気候危機解決に対しては3.5%のために更に多くの人が必要なので手を挙げてほしいことを、熱く訴えた。そのほか、映画に出演していたメンバーのその後の活動や、ご自身が今のような形で環境活動に関わるまでにアメリカで俳優をやっていた経歴も紹介し、より広がりや深みのあるトーク内容になっていた。

## ■質疑応答・意見交換

「京都議定書のころから二酸化炭素原因説に異論を唱える学者などいたが今はどうなのか」「太陽光パネルの設置を促進する活動をしているが、他の地域で参考になる試みがあれば教えてほしい」これらの質問のほか、「原子力をもっと活用すべし」「原子力は断固反対」という正反対のもの、「選挙で政党は気候変動問題にどう取り組むかを避けないで明確に打ち出すべき」「ヨーロッパのガソリンは高かったが日本は安すぎるので見直すべき」「高速道路の壁面や屋根貸しを活用して太陽光パネルを国がどんどん設置すればよい」など、多様な意見が聞かれた。それらに対して、荒尾さんからの適宜適切なコメントがあった。まとめとして、「日常の中で何ができるのかは見つけにくいことがあると思うので、相談事があればいつでもメールなどで連絡してほしい」と、コメントを締めくくった。

最後に司会者から参加者へ「アクション宣言を書いてください」と呼びかけがあり、手用の用紙に一斉にペンを走らせて、それを掲げて集合写真に収まりイベントは閉会となった。

## ■参加者のアクション宣言から

層別すると、対策への取り組みを支援する（対策事業者から購入する、電力会社を変える、再エネ電気を勧める）、周囲や政治を啓発する（地元の市民や議員に広げる、町内会で共有する、身近に話す）、既存の活動に参加する（気候変動基礎クラスを受ける、350 に入りたい、環境講座に参加する）、環境保全の活動をする（自然農と生ごみコンポストの実践、プラごみ削減、ごみ分別の徹底）、というのが主なものだった。これらのほか、太陽光発電を増や



していく、自ら動くことを含めて自然エネルギーを広める必要性を訴えるものが見られた。

## ■参加者アンケートから

上映映画については、「日本で影響を受けている人たちの話を見ることで危機感を身近に感じた」「若者たちが活動している姿に、勇気をもらい希望をもった」との感想が多数あった。また、荒尾さんのトークについては、「コメントに力があり心に響く話し方だったので希望が湧いた」「具体的でわかりやすく説得力があった」「自分も 3.5% になれたらと思った」という前向きな受け止めが多かった。参加者意見交換に関しては、「人数が多すぎて意見交換には程遠かった」との厳しい意見もあった。

参加者の年齢層は高かったが、20～30 歳代が 10% 程度いたのは希望だった。しかし、「若い人が少ないようだ」との意見もあったので、若い人の心にも響き、より幅広い年齢層に参加いただけるイベントを企画して広報していきたいと思う。（森脇厚一郎 記）

## コラム

## 2023年麻生区男女共に平均寿命が日本一に！！

男性の平均寿命は 6 年前から第 2 位にあった。いずれチャンスがくれば、第 1 位もあると男性達にはっばを掛けてきた。他方女性の上位には沖縄県の 1 町 2 村のおば一達がいて、とても手強いと思っていた。2023 年 5 月に、男性 84.0 歳、女性 89.2 歳で共に第 1 位となった。

ところで沖縄には、米軍基地が多く、アメリカから大量の食材が導入され、伝統的な食事が維持できなくなり平均寿命も影響を受けざるを得なくなっていた。



麻生区には百合丘や千代ヶ丘など丘や谷戸と共に、三沢川、五反田川、麻生川、真福寺川、早野川などが存在していて起伏に富み、坂道が多いのでインターバルウォーキングが自然と身につく筋肉を育てた。しかも比較的豊かな人々が多く居住し、自然環境や健康にも関心が高いことが優位に働いていると思われる。（児嶋脩 記）

## 家計を直撃！電気代は下げられる？！

11月25日(日)、今回の企画は身近な「電気代」の話をきっかけに、自然エネルギーや省エネについて学びを深め、考えて行動につなげることを目的に、講演と意見交換を行いました(参加者36名)。

最初に講師の廣瀬健二さん(認定NPO法人アクト川崎 理事長)から、地球温暖化の現状や、住宅の断熱、断熱エコハウス(講師自宅)の導入事例の紹介がありました。特に窓・窓ガラス断熱の対策が最も効果が高く、リフォームの補助金も充実しているので、今の暮らしをエコにすることで、電気代を下げただけでなく、健康で脱炭素な暮らしにもつながる事を学びました。

次のマンション管理士の廣瀬昇さん(認定NPO法人アクト川崎 理事)から断熱(高日射反射率塗料、玄関ドア交換など)・照明(共有部分の照明をLEDに交換、人感センサー)・動力(給排水ポンプやマシンレスエレベータなど)・創エネ(太陽光パネル)など、マンションの省エネ改修のポイントについて説明がありました。

意見交換では、参加者が戸建・集合住宅ごとに、5つのグループに分かれ、30分間で感想の共有と、電



気代を下げる工夫への気づきについて話をしました。各自の省エネや創エネの工夫(補助金を使ってこんな事をした、家で行っている省エネ)、講演を聞いて気づきがあった事など、付箋に書き出して模造紙に貼りつけながら、意見交換を行いました。最後に発表者がグループで出た話題や意見を発表し、参加者全員で情報を共有し、時間が足りないくらい話ができました。グループワークは、当会で初めてのチャレンジでしたが、いろいろな立場からの意見や感想を聞くことができ、悩みが話せたなど大変好評でした。

川崎市はマンションに住む人が7割。集合住宅の話題を初めて取り上げたことで、共有部の省エネやマンション管理士への相談など、今後参考にしたい、という意見が多くありました。(松下彰子 記)



## 麻生区 100人カイギに登壇

地域で活動する100人の話を聞いて、人と人をつなぐイベントが各地で開催されている。麻生区では3回目として2月11日(日)市民館の第1会議室で開かれ、ゲストとして児嶋脩が登壇した。

「私が生まれる前、70年間は10年に1度戦争があった。第二次世界大戦後施行された日本国憲法下では、外国人を銃で殺傷していない。戦争はエネルギーを浪費し、人を殺し、文明を灰にした。

約40億年の長いスパンで地下に埋蔵された石炭、石油、天然ガスを、産業革命後のほぼ百数十年間でH<sub>2</sub>OとCO<sub>2</sub>にして大気圏に放出して良いのか？さらに地下に固定されているメタンやメタンハイドレートなどを浮上させないようにし、Tipping point(臨界点)を越えないようにしたい。」と話した。(児嶋脩 記)

## あさお区民まつり “おひさまと遊ぼう”

10月8日(日)

9月の子育てフェスタの時はブースの前が広く空いていたので、ソーラーカーを広場に持ち出し伸び伸び遊べたが、今回はそんな余裕が無い。それでもテーブルの上で出来る手回し発電機を楽しんでいた。小さな子どもがおもちゃを見つけると、目を輝かせて、興味深く見入っていた。わずかな太陽光でも観覧車が動き、太陽を遮るとピタッと止まってしまう状況に目を丸くして喜んでいました。

ただ子どもが楽しむだけではなく、クールアースの活動に耳を貸してくれた方々には、会報とイベントのチラシを配布しさらに景品を選んでもらって、数十名の方にアピールできた。(井上正樹 記)





4

10月21日(土)麻生小学校で「寺子屋あさお」の体験学習『SDGsを学ぶ:風力発電機を作ろう!』を実施した。

「自然エネルギーがやってきた」の講義。そのあと、ペットボトルで作る風力発電の工作、本日のまとめとクイズを実施した。子どもたちからは『楽しかった。はやしさんたちがおもしろかった。クイズがむずかしかった。話はまあまあわかった。』などの感想があり、来年度もぜひ対応したい。

なお、参加者は1年生(8名)、2年生(1名)、3年生(2名)と保護者を含めて約20名であった。

(三好一義 記)



麻生区クールアース推進委員会 2023年度の活動

2023年	5月2日	特別養護老人ホーム潮見台みどりの丘(2022年度川崎市スマートライフスタイル大賞最優秀賞&環境大臣賞ダブル受賞)見学
	6月27日	麻生区役所太陽光発電設備見学受け入れ:川崎市民アカデミー“環境とみどり”ワークショップ環境グループ
	7月6日	出前講座:かもく会勉強会
	8月11日	2023夏休み環境イベント「ソーラーエコハウスを作ろう!」
	8月19日	出前講座:寺子屋くりぎだい「ソーラーエコハウスを作ろう!」
	9月16日	あさお子育てフェスタ出展
	10月8日	あさお区民まつり出展
	10月21日	出前講座:寺子屋あさお「SDGsを学ぶ:風力発電機を作ろう!」
2024年	11月25日	あさお自然エネルギー学校 家計を直撃!電気代は下げられる?!
	2月18日	麻生区役所太陽光発電設備設置21周年記念イベント 『気候変動と日本』 映画を見て、温暖化対策に一步踏み出そう
	2月23日	2024里山フォーラム in 麻生出展:委員会紹介とポスター展示

編集後記

新年に大地震が襲った。能登半島地震である。災害に遭われた全てのみなさまに心からのお見舞いを申し上げたい。私たちの住む日本はこんなにも脆弱な地震列島であるのか!ただ、自然災害とはいえ、万端の備えをしたい。特に原発の再稼働について、大きな不安を覚えた。最大震度7を観測した石川県志賀町には、現在は運転を休止しているが、志賀原発がある。今後、再稼働の議論が深まると報道されている。一方では、温暖化対策といえば世界の潮流は再エネだ。2023年末に開催のCOP28では、118ヶ国が2030年までに世界の再エネの容量を3倍に拡大することを誓約している。

先日、クールアース委員会も招聘されていた「麻生区100人カイギ」にお邪魔した。いやあ、若者のエネルギーに圧倒された。久しぶりに感じたパワー。当会は他区に先駆けての温暖化防止に取り組んできたが、今、担い手と参加者を多様な世代に広げるという課題を抱えている。最近では、委員たちの努力の結果、少しずつ変化してきたが、その変化にお気づきだろうか。

そもそも私たちの立っている「環境」が持続可能でなければ、私たちは生きられない。当会はそこに強く関心を寄せて活動を進めている。これからもっと多様な世代のみなさんと一緒に進めたいと強く思った。

(飯田和子 記)

発行: 麻生区クールアース推進委員会 (委員長 児嶋脩)  
 編集担当: 飯田和子、児嶋脩、小林知江  
 問合せ先: 事務局 林恵美

Tel/ Fax : 044-299-6460 E-mail : emi814@sound.ocn.ne.jp

発行日: 2024年3月20日

